中日ニュース
シネスコ版

高麗ニュースNo.272
新愛媛ニュースNo.200

No. 537

39. 5. -1

一、飛び石連休

——東京・群馬・静岡

四月二十九日、天皇陛下は六十三才の誕生日を迎えられました。陛下は国事行為のお仕事もおいそがしい一方ですが、ますます御壮健で公務の間には生物学の研究を続けておられます。

心配されていた四女の池田厚子さんの病気も全快、義宮さまのご婚約も決まり、まずは「日日是好日」のごようすです。

バカンス時代を反映して、あいにくの空模様にもかかわらず飛び石連休ふたあけの行楽地は例年どうりにぎわっています。

都内の遊園地では日頃の家庭サービスを補う〝サラリーマン父チャン〟。谷川岳も相変らずの人出です。

そして湯の町、熱海ではいよいよかき入れ時とあって「駅番」もお客をキャッチするのに懸命。

こうして今年もゴールデンウィークは各地、人波でうずまりました。

現代に生きる

一、蚕とともに

高度経済成長!! 開放経済体制!! とわが国の産業は大飛躍をみせています。

そうしたなかにあって日本農業だけは相変らずの低迷状態を続けているのです。

ことある毎に近代化、合理化が叫ばれその基本的施策が生まれるかの感こそすれ、もはや農業は忘れられた存在であるかのよう。

若い、エネルギーは需要の多い他産業へ雪崩れ込み、農業は老齢化の一途を辿るばかりです。

そして、世界にその名を馳せた絹業も化繊の洪水の中に埋没されたかの様相を呈していたのです。

だが、このような大勢にしっぺ返えしをくれようと地道ななかにもエネルギッシュな活動をみせている人がいます。

愛媛県の養蚕指導員河野鉄夫さんがその人。山奥の盆地、野村町に古きよき時代の絹を自らの手で甦らせようというこの道二十年養蚕一筋に生きてきました。

ここ野村町は製糸工場もある昔からの養蚕地帯、河野さんは養蚕経営、技術指導に九百戸からの養蚕農家をかけめぐるのです。

そして今では町ぐるみの積極的な協力を得て、近代的な共同桑園、共同飼育場の建設に骨身を惜しまぬ働きをしています。

養蚕農家と討論の場を持ち、桑園用の土地買収に頑固なら地主を説得させるなどその苦労は並大抵なものではありませんでした。

そして四月二十九日、待望の共同飼育場が完成。河野さん全員で御祝いをしました。

そうしてここの広大な桑園と共同飼育場は、合理化を自らの手でやり遂げた人達だけの満足感ではなく、これからの養蚕に大きな指針を与えることになるのです。

河野さんの仕事はあたかも蚕が織りなす繭のよう。一つ一つが見事に実っていくのです。

100R　232R　385OR　627OR

製作配給　東京中日新聞　中部日本ニュース映画社